

22	碧海	知立市立知立中学校	サトウ リサ 名前 佐藤 里紗
分科会番号	3	分科会名	社会（中）

## 研究題目

対話的な活動から、根拠をもって表現し自分の考えを深めることができる生徒の育成  
～中学1年社会科「古代の偉人総選挙！最も政治力があつた人物を決めよう」の実践を通して～

## 研究要項

### 1 主題設定の理由

2016年に選挙権が引き下げられたが、2019年の参院選での18～19歳の投票率は全体平均より大きく下回っており、若者の政治への関心の低さが懸念されている。中学生から、経済や国際など社会の動きに対して、自分なりに意見を持ち他人に伝えることや、社会の動きについて過去の資料をもとに多面的・多角的に捉えることは重要である。その役割を担う一つが、社会科の授業だと考える。

本学級の生徒は、話し合いを活発に行うことができ、相手の意見に対し「そうなんだ」など反応する様子が多く見られる。一方、相手から「なんで？」と聞かれると、「なんとなく」と答える生徒も多く、理由や根拠を詳しく伝える力が低い。実践に入るにあたりアンケートを行ったところ、「歴史が好き」「発表することが好き」と答えた生徒は過半数だが、「自分の考えに根拠や理由をつけることが得意」と答えた生徒は少ないことが分かった。歴史の学習を通して、根拠をもって自分の意見を他人に伝える経験が必要だと考えた。

### 2 研究の目標

#### (1) 目指す生徒像

① 根拠をもって表現する生徒	・資料を適切に読み取ることができ、読み取ったことをもとに自分の考えをまとめ、他人に伝えることができる生徒
② 自分の考えを深める生徒	・歴史的事象について、多面的・多角的に考えることができる生徒 ・資料や他人の意見から、自分の意見を見つめ直し、考えを深めることができる生徒

#### (2) 研究の仮説と手立て

本研究で定めた目指す生徒像に迫るため、次のような仮説と手立てを設定した。

**仮説Ⅰ** 古代の日本の学習において、生徒が興味をもつ資料を効果的に提示したり、資料をもとに考えをまとめる個人学習の場を設定したりすれば、根拠をもって表現できるだろう。

##### 【手立てⅠ—① 興味をもつ資料の提示】

教師からの説明の際、各人物に関する資料を生徒が興味をもてるよう効果的に提示することで、自分の意見の根拠にしやすいようにする。また、全体での話し合いの際にも問い返しとして新たな資料を提示することで、考えが深まるようにする。

##### 【手立てⅠ—② 資料をもとに考えをまとめる場の設定】

自分の考えを整理できるよう、個人の調べ学習の場をつくり、政治力のある人物を考えて、まとめさせる。また、その人物を選んだ理由について、資料を添付して説明させることで、根拠をもって考えを述べられるようにする。

**仮説Ⅱ** 古代の日本の学習において、生徒が多面的・多角的に考えられるような学習課題を設定し、学習課題を追究しやすい思考ツールを作成したり、学習課題について学級全体で話し合う場を設定したりすれば、自分の考えを深めることができるだろう。

##### 【手立てⅡ—① 多面的・多角的に考えられる課題の設定】

「古代の偉人総選挙！～最も政治力があつた人物を決めよう～」という課題を設定し、「政治力」を、「制度づくり」だけに限らず、「国際面」「文化面」「経済面」など複数の面から評価することで、多面的・多角的に考えることができるようにする。

## 【手立てⅡ一② 多面的・多角的に考えをまとめる思考ツールの作成】

振り返りの際、レーダーチャートを用いて人物を評価したり、タブレットのシートに考えをまとめたりすることで、政治力のある人物を多面的・多角的に捉えられるようにする。

## 【手立てⅡ一③ 学級全体で話し合い、意見をもとに最終投票する場の設定】

自分と異なる意見を聞くことで、さまざまな視点から課題を捉え、考えを深めることができるようにする。

### (3) 指導計画

- ・第1回投票をしよう（第1時）
- ・古代の人々の活躍について調べよう（第2～7時）
- ・詳しく調べて、政治力のある人物を観点別に選出しよう（第8～10時）
- ・学級で話し合い、最も政治力があつた人物を決めよう（第11時+随時）

### (4) 研究の方法

本研究では、抽出生徒Aの変容を中心に手立ての検証を進める。

#### 生徒Aの実態

アンケートでは、歴史は好きだが、意見を伝えるのが好きではない、根拠をもって意見を伝えることが苦手だと回答している。質問されたら答えるが、自分から発言したり意見を求めたりはしない。一方で、調べたりまとめたりする活動は得意である。

#### 生徒Aにかける願い

生徒Aが好きな、自分で調べたりまとめたりする活動などを通して、他の生徒に対して、自分の考えに理由をつけて伝えたり、意見を求めたりすることができるようになってほしい。

## 3 研究の実践と考察

### (1) 第一回の投票結果から、古代の日本の人物に関心をもつ生徒A

第1時では、導入として小学校で学習した人物が描かれている教科書のイラストを見せた。生徒たちは、「聖徳太子だ」「大仏は東大寺だね」「あの女性は源氏物語の人？」と言っていた。生徒の興味が出たところで、「突然ですが、選挙をしてみましよう」と声をかけると、多くの生徒は、「どういうこと？」「やりたい」と反応していた。そこで、学習課題「古代の偉人総選挙！最も政治力があつた人物を決めよう」を提示した。生徒が「政治力がある人って何？」と発言したので、学級全体に問いかけた。生徒は、「みんなを引っ張る人」「ルールを作る人」「お金持ち」「世界で活躍する人」などと答えたので、「そのような力があると思う人物に投票しよう」と発問し、タブレットでアンケートを配った。生徒たちは、教科書を見ながら投票していた。生徒Aも教科書を読み、聖徳太子と中大兄皇子のボタンを行き来させた後、聖徳太子に投票していた。投票結果をテレビ画面に表示すると、「おー」「やっぱり聖徳太子が多いかー」「中大兄皇子と藤原道長も人気だね」「小学校で勉強した人しか分からない」などと反応があった。最後に「単元の最後には最終投票をするよ、自分なりに意見をまとめて伝えられるように、これから一緒に勉強していこう」と伝えた。資料1は、生徒Aの振り返りである。「勉強したら政治力が大きい人物が変わるかな」とあり、今後の学習に関心が高まっていることがうかがえる。

#### 資料1 生徒A振り返り

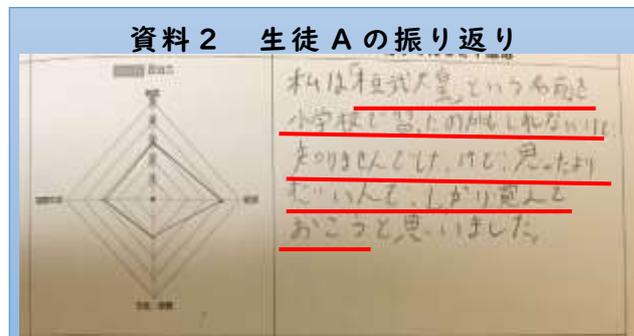
聖徳太子や中大兄皇子が多かったし、私もその二人に投票したけれど、他の偉人を選んでいる人がたくさんいたので、考え方が人それぞれなんだなあと思いました。また、今日は小学校の時の記憶をふりしぼったり、教科書をサラッと見ただけなので勉強したら政治力が大きい人が変わるかなあと思いました。

### (2) 資料を読み取り、桓武天皇への関心を高める生徒A

投票後、多くの生徒が「名前は知っているけど詳しく知らないから勉強したい」と感想を書いていた。そこで、政治力があつた人物の活躍やその背景の出来事などについて、資料を示しながら学習を進めることにした。特に、この時代に活躍した、聖徳太子、中大兄皇子、天武天皇、聖武天皇、鑑真、桓武天皇、菅原道真、藤原道長、清少納言の9名を中心に学習し、9名の政治力を「国際」「制度」「文化・宗教」「経済」の4観点で評価するこ

とで、多面的・多角的に捉えることができると考えた。

第6時には桓武天皇について学習した。平安京へ遷都した理由として、弟のたたりをおそれていた資料を提示すると、「怖い」「なんで？」と驚いている様子だった。次に、桓武天皇の政治改革について詳しく調べるために、当時の社会状況が分かるよう、戸籍や蝦夷への侵攻などの資料を提示した。生徒は、「庶民が戸籍を偽るくらい税の負担が大きかったけど、それだと税がとれなくなるから桓武天皇は軽くしようとしたのかな」「東北を攻めるってことは領地が増えていくのかな」と発言していた。資料2は、生徒Aが記入したレーダーチャートと振り返りである。「桓武天皇という名前を小学校でならったのかもしれないけど知りませんでした。けど、思ったよりすごい人で、しっかり覚えておこうと思いました」とあり、興味・関心が高まっていることが分かる。



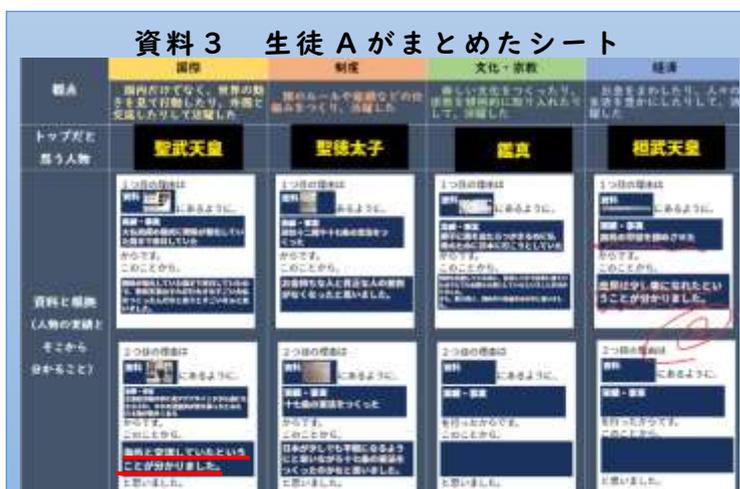
### (3) 個人学習を通して、資料から読み取ったことを適切にまとめていく生徒A

第7時で藤原道長と清少納言について学習した後に、「これで重要人物の紹介は終わります。次回から、学んだことを踏まえて政治力が大きい人物を選んでいきます」と伝えた。多くの生徒が「うーん」「どうしよう」「やっぱりこの人かな」と悩んでいる様子だった。

第8時では、「最終選挙に向けて、詳しく調べて政治力の大きい人を観点別に選出しましょう」と問いかけ、個人での調べ学習の時間を設けた。その際、ロイロノートの資料箱に人物別に資料を入れて、生徒がいつでも見られるようにした。また、グループ内で相談したり質問したりしても良いと伝えた。生徒Aは資料を読み、シートに入力していた。理由を複数書けるよう、教師は「聖武天皇が国際交流していた資料は？」コメントを付けて返却した。第10時の個人学習で、生徒Aは教師からのコメントを読み、同じグループの生徒に「これってどんな資料を見ればいいかな？」と質問した。質問された生徒は、生徒Aに、「ここじゃない？」と、正倉院に保管されているものが載っている資料集のページを示した。生徒Aは、「なるほど」とうなずき、シートにまとめた。資料3は、生徒Aのシートである。「海外と交流していたことが分かりました」などの記述から、個人学習を通して、資料から読み取ったことを適切にまとめていることがうかがえる。

資料3 生徒Aがまとめたシート

観点	国際	制度	文化・宗教	経済
観点	国内だけでなく、世界の動きを見て行動したり、洋書で交流もみられて発展した。	他のルールや制度などの仕組みをつくり、当時から使われてきた。	新しい文化をつくり、より発展を促すために取り入れられた。発展した。	お金をまわしたり、人々の生活を豊かにしたりして発展した。
トップ3の人物	聖武天皇	聖徳太子	鑑真	桓武天皇
資料と解説 (人物の業績上、そこから分かること)	1つ目の理由は、聖武天皇は、日本に仏教を広げ、国を統一した。2つ目の理由は、聖武天皇は、日本に仏教を広げ、国を統一した。3つ目の理由は、聖武天皇は、日本に仏教を広げ、国を統一した。	1つ目の理由は、聖徳太子は、日本に仏教を広げ、国を統一した。2つ目の理由は、聖徳太子は、日本に仏教を広げ、国を統一した。3つ目の理由は、聖徳太子は、日本に仏教を広げ、国を統一した。	1つ目の理由は、鑑真は、日本に仏教を広げ、国を統一した。2つ目の理由は、鑑真は、日本に仏教を広げ、国を統一した。3つ目の理由は、鑑真は、日本に仏教を広げ、国を統一した。	1つ目の理由は、桓武天皇は、日本に仏教を広げ、国を統一した。2つ目の理由は、桓武天皇は、日本に仏教を広げ、国を統一した。3つ目の理由は、桓武天皇は、日本に仏教を広げ、国を統一した。



### (4) 他の生徒の意見と関連させて発言する生徒A

第11時では、調べたことをもとに発表した。まずは、一人一人が意見を発表できるよう、小グループで意見を共有する時間を設けた。生徒Aのグループでは、写真1のように、シートを見せながら、意見を伝え、生徒Aは相手のシートを注視し「うんうん」とうなずく姿が見られた。次に学級全体で意見を共有した。どの生徒も、まとめたシートをもとに、その人物を選んだ理由について発表してい



た。資料4は、学級全体で生徒が述べた意見をまとめたものである。

#### 資料4 学級全体の意見

① 国際	② 制度	③ 文化・宗教	④ 経済
<b>鑑真</b> ・自分の体を犠牲にしてまで、正式な仏教を伝えた <b>聖武天皇</b> ・正倉院には唐などのものも多くあり、外国の文化を取り入れた <b>菅原道真</b> ・唐の衰えを知って、遣唐使を停止した	<b>聖徳太子</b> ・冠位十二階で、位をわかりやすくした ・十七条の憲法をつくった <b>天武天皇</b> ・唐や新羅に負けぬよう歴史書や律令を作った <b>桓武天皇</b> ・政治を立て直すため遷都 ・雑徭を減らした	<b>聖武天皇</b> ・全国を災害から守った <b>清少納言</b> ・平仮名→日本文化の土台 ・女性が活躍するきっかけ <b>聖徳太子</b> ・隋から新しい制度や文化を取り入れた <b>鑑真</b> ・正式な仏教を伝えた	<b>桓武天皇</b> ・蝦夷との戦争で、土地やものを得たのではないかと <b>菅原道真</b> ・航海の危険から遣唐使を停止したことで、無駄をやめて、より役立つことにお金を使うことができた <b>天武天皇</b> ・貨幣づくりは経済そのもの

資料5は、資料4の意見を踏まえて、実際に誰が一番だと思うか話し合いをしたときの授業記録の一部である。

#### 資料5 学級での話し合いの一部

教師：国際が一番は誰だと思いますか？

S1：鑑真が国際が一番なのは違うと思います。ルールを破ってまで日本に来るのは、どうかと思います。それよりも、260万の人たちを大仏づくりに動かしたり、開眼式に外国の偉い人をよんで実際に国際交流をしたりしていた聖武天皇のほうがすごいと思います。

S2：でも、鑑真が来たから聖武天皇とかも活躍できたと思う。

生徒：たしかに。

S3：当時の日本では、税から逃れるために、勝手に僧になってしまう人も多かったから、そんな社会を救おうとした鑑真はすごいと思います。

(中略)

教師：では、経済はどう？

生徒A：私は桓武天皇だと思います。政治のところにもあるけど、雑徭を減らしました。この時の庶民にとって税の負担が少し楽になったんじゃないかなと思います。だから、経済でトップだと思います

生徒：たしかに。税は払いたくないよね。

S4：私はやっぱり菅原道真だと思います。遣唐使を停止させようと提案して、とても視野が広く冷静な人だと思います。のちに国風文化を発展させるという意味でも、経済に貢献していると思います。

S1が「鑑真はルールを破っているので、良くないと思う」と発言したのをきっかけに、S2が「聖武天皇が活躍できたのは鑑真のおかげ」と反論するなど、聖武天皇と鑑真の功績を比較する様子があった。また、生徒Aは資料4中「雑徭を減らした」に着目し、「政治のところにもあるけど、雑徭を減らしました。庶民にとって税の負担が少し楽になったんじゃないかなと思います」と発言した。他の生徒の意見から、政治の面と経済の面を関連付け、政治する側の視点と庶民の視点で意見を述べていたことから、多面的・多角的に考えていることがうかがえる。授業の最後に、「今日意見が出た人物から、政治力のある総合一位を決めるよ」と伝えると、多くの生徒は「うーん」と悩む表情を見せた。

#### (5) 違う立場の人の意見に根拠をもって反論したり、同じ立場の人の意見を取り入れたりして考えを深める生徒A

第12時では、はじめに、最も政治力がある人物総合一位を考えて、タブレットにまとめた。資料6は、生徒Aが書いたカードである。「桓武天皇」と記入し、「制度と経済の両方に入っているから(雑徭を減らして庶民は少し楽になったし、政治を立て直すために2回も都を移したりした)」と、前回の発言を踏まえて理由を書いていた。その後、自由に意見を共有する時間を設けた。生徒Aは、3名の生徒と話し合っていた。一人の生徒が「絶対、聖徳太子だよ。初めて仏教を取り入れようとしたんだよ」と言うと、生徒

#### 資料6 生徒Aのカード

制度と経済の両方に入っているから

(雑用を減らして庶民は少し楽になったし、政治を立て直すために2回も都を移したりしたから)

#### 資料7 全員の回答

- ・聖徳太子 (11)
- ・天武天皇 (2)
- ・鑑真 (10)
- ・桓武天皇 (2)
- ・菅原道真 (3)
- ・清少納言 (1)

A は「でも宗教ってそんなに大事な。それより制度とか経済とかが大事だと思う」と返した。次に、全員の回答（前ページ資料7）をテレビ画面で見せると「やっぱり聖徳太子が多いんだ」「鑑真もまあまあ多いぞ」と反応していた。「今から全体で話し合います。途中で変えてもいいので、その場合はカードを書き換えて提出してください」と伝えた。資料8は、全体での話し合いの一部である。

### 資料8 学級での話し合いの一部

S1：僕は、正直、鑑真と天武天皇で迷ってます。でも、聖徳太子に反対で、遣隋使を送った時、隋を「太陽の沈む国」と言っていました。とても失礼だと思います。

S2：でもそれは、日本をいい国にするという目標が込められていると思うから、問題ないと思う。

S3：今の意見に付け足して、とてもユーモアがある人なんじゃない？

教師：聖徳太子の引退について、知っていますか？（聖徳太子が40歳で政界を去る資料を提示する）

生徒：えー！

S4：40歳であきらめているなら、僕、鑑真に変えます！

S1：なんで？

S4：あきらめてるんだよ。嫌じゃん。あきらめなかった鑑真の方がすごいじゃん。

生徒A：（S5に話しかける）

S5：鑑真は、宗教・文化、国際の一部だけで活躍した人です。桓武天皇は、全体的に全ての観点で活躍していると思うし、44歳を超えても、政治を続けていた資料がありました。人々のために長く治める桓武天皇はすごいと思います。

S6：鑑真は一部だけという意見に賛成です。僕は菅原道真にしたけど、日本らしい初めての文化が広がるきっかけをつくったので、その影響は大きいと思います。

教師：菅原道真の功績は、遣唐使を停止したことだけではありません。（菅原道真の功績についての資料を提示する）

生徒：へー！すごい。

S7：菅原道真は、右大臣になりました。天皇や摂政や僧でない立場でも、自分の提案を押し進めて日本を発展させようとしたから、神様としてまつられているんだと思います。

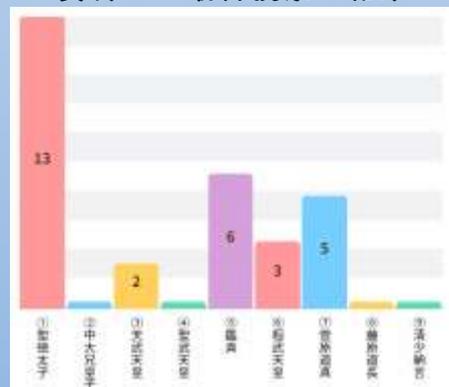
S3：あ、S4さんが鑑真から桓武天皇に変えてる！（テレビ画面を指差す）

S4：いや、なんか、鑑真も違うかなって思ってたんですけど

S1の「聖徳太子は失礼だ」という発言をきっかけに議論が進んだ。そこで、問い返しとして、聖徳太子が40歳で政界を引退し、引退後は仏教の世界に入り「信じる者は仏のみ」と言葉を残したという資料を提示した。多くの生徒が驚き、聖徳太子と鑑真とで迷っているS4は、「あきらめているなら鑑真に変えます」と発言した。また、生徒Aは、同じ意見のS5と資料集を見ながら話していた。その後、S5が桓武天皇は鑑真と比べて多くの観点で実績があること、44歳を超えても政治を続けていたという資料があったことを主張して、S4はさらに意見を変えた。これらから、問い返しの資料を提示したことで、生徒の考えを深めることができたと考えられる。資料9は、話し合い後の投票結果である。結果をテレビ画面で表示すると、生徒たちは「やっぱり聖徳太子か」「鑑真も多いけど、菅原道真も増えたね」と反応していた。資料7と比較しても、聖徳太子、桓武天皇、菅原道真の票数が増えたことが分かる。

資料10は、生徒Aの振り返りである。生徒Aは、最終的に桓武天皇に投票したと書いている。「都を2回も移した」「軍事と造作を中止した」「40歳を過ぎてもいろいろとやっていた」という内容から、個人学習（資料3）やはじめの意見（資料6）には書いていなかった意見も書いており、他人の意見を取り入れて、自分なりに考えをまとめていることが読み取れる。

### 資料9 最終投票の結果

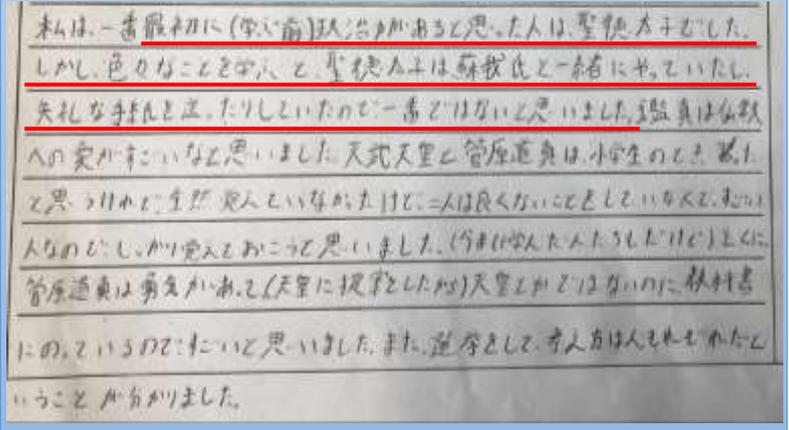


### 資料10 生徒Aの振り返り

私は桓武天皇にしました。理由は四つあります。一つ目は、政治のために都を2回も移したからです。移したということは、それにしがっている人がたくさんいると思うから、それだけ信頼できる人だったのかなと思った。二つ目は、雑徭を減らして、庶民を少し楽にしたからです。三つ目は、藤原緒朝の意見を採用して、軍事と造作を中止したことを知り、優しい人だと思ったからです。四つ目は、聖徳太子は40歳で引退したのに、桓武天皇は40歳を過ぎてもいろいろとやっていたので、すごいと思ったからです。

資料 11 は、生徒 A の単元のまとめである。「最初に政治力があると思った人は、聖徳太子でした。しかし、色々なことを学ぶと、聖徳太子は蘇我氏と一緒にやっていたし、失礼な手紙を送ったりしていたので一番ではないと思いました」とあり、学習前と比較して、自身の考えが変容したことを実感できたことが読み取れる。また、「菅原道真は勇気があって、天皇とかではないのに（中略）すごいと思いました」の記述から、資料 8 の「天皇や摂政や僧でない立場でも、自分の提案を押し進めて日本を発展させた」という発言を取り入れて自分の意見としてまとめていると考えられる。

#### 資料 11 生徒 A が書いた単元のまとめ



### 4 研究の成果と今後

#### (1) 仮説 I について

手立て①について、生徒 A は、「桓武天皇が思ったよりもすごい人」と記述したように、生徒が興味をもつ資料を効果的に提示することで、興味・関心を高めることができた。手立て②について、生徒 A は、同じグループの生徒に質問し、探した資料をもとに「海外と交流していたことが分かった」と記入しているように、個人学習の場を設定したことで、探した資料を根拠にしてまとめることができた。以上より、読み取った資料をもとに、自分の考えをまとめ、他人に伝える姿が見られたことから、仮説 I に対する手立ての有効性が検証されたと考える。

#### (2) 仮説 II について

手立て①について、生徒 A が最初は聖徳太子が一番だと思ったけどそうではないと書いたように、多面的・多角的に考えられる課題を設定したことで、古代の人物について、政治、国際、文化など、多面的に捉えて考えることができた。また、生徒 A が「雑徭を減らし庶民の生活を楽にした」と発言したように、桓武天皇の政治について、皇族だけでなく、庶民の立場になって考えるなど、多角的にとらえることもできた。手立て②について、総合一位を決める際に、生徒 A は、シートを見て「制度と経済の両方に入っているから」と理由を書いていたことから、多面的・多角的に考えをまとめる思考ツールを作成したことは、自分の考えをまとめるのに重要な役割を果たしていたと考える。手立て③について、生徒 A は、S5 と資料集を見ながら話したり、最終投票の理由に「40 歳を過ぎててもいろいろとやっていた」などと記述したりしたように、学級全体で話し合い、意見をもとに最終投票する場を設定したことで、同じ立場の人の意見を取り入れて自考えをまとめることができた。以上より、多面的・多角的に考えたり、資料や他人の意見から考えを深めたりする姿が見られたことから、仮説 II に対する手立ての有効性が検証されたと考える。

#### (3) 今後の課題

今回は、古代の人物の政治力をさまざまな観点で捉えられるように、単元や手立てを構想した。生徒 A の記述や発言からも、制度面や経済面、国際交流面など、「多面的」に考える様子が多く見られた。一方で「多角的」な見方を育むための手立てが不十分だった。「庶民」「貴族」「中国」など、さまざまな角度から政治力を捉えられるよう、声をかけたりシートを工夫したりする必要があったと考える。今後も、生徒が社会的事象について資料をもとに多面的・多角的に捉えられるよう、研究を続けたい。